

2010夏 北海道山のたび①

幌尻岳は通行止め

代わりにたずねた花のアポイと襟裳岬



名山完登をめざす人にとって、最も困難とされる幌尻（ぼろしり）岳。北海道日高山脈の盟主。この幌尻岳に登るべく、麓の登山基地・豊糠（とよぬか）山荘に投宿したのは7月24日。

ところが登山路が通行禁止になっている。この登山路は糠平川を遡行・渡渉する部分があり、降雨による増水でしばしば通行止めになるのだ。

予した4人の男女はいずれも100名山完登めざし

ハクサンシャクナゲ（アポイ岳） てカウントダウンに入っている人達。それだけに通行止めのショックは大きい。

翌朝も事態は変わらず、登山口へのバスも運行されない。幌尻岳を断念しアポイ岳に登ることとなった。

特別天然記念物のアポイ植物群落

アポイ岳は海拔810.6m。日高山脈最南端の山。海岸に近く、濃い海霧が日光をさえぎって気温を低下させ高山同様の条件を作り出している上に、地質も「幌満カンラン岩体」と呼ばれる特殊な物で、貴重な高山植物や此処にしかない固有種が自生していることで有名。

アポイ岳の高山植物群落は国の特別天然記念物となっているが、植物群落そのものへの指定は岩手県・早池峰山、長野県・白馬岳とアポイとの3例だけだそうだ。

朝7時に平取町の豊糠山荘を発ったものの、様子町のアポイ岳登山口に着いた時は9時を回っていた。雨もよいの曇天だが、樹林帯の路は明るく、ハクサンシャクナゲが目立っている。まもなく5合目の避難小屋着。ここからは岩稜歩きになり、途端に花が多くなる。キンロバイが鮮やか。そして初めて見るアポイマンテマがいたるところに咲いている。イブキジャコウソウ、クルマユリ、ミヤ



キンロバイ（金露梅・バラ科）アポイ岳



アポイマンテマ（ナデシコ科）特産種

マホツツジ、エゾコウゾリナなどなど。さすが花の名山だ。



エゾコウゾリナ (キク科)



イブキジャコウソウ (シソ科)



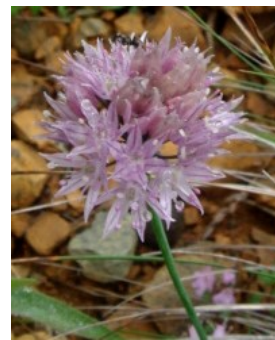
サマニオトギリ? (オトギリソウ科)



クルマユリ (ユリ科ユリ属)



ミヤマムラサキ (ムラサキ科)



ヒメエゾネギ (ユリ科)

襟裳岬－強風の中で咲き競う花々たち

アポイ岳の花を楽しんでから、車を襟裳岬に走らせた。海沿いの国道の陸側には競走馬牧場が多く、そこではスマートな馬たちがのんびりと草を食べており、中には親子連れのエゾシカもが遊んでいる所もあった。海では日高昆布の採り入れが行なわれていた。日高山脈の豊かな緑やアポイ岳の特殊な地質が、海の幸をも豊かにしているのであろうか。



カワラナデシコ

「何も無い春」を唄われた襟裳岬は青々とした笹原の丘陵が鉛色の海に突き出し、その丘には色とりどりの花たちが、吹き付ける冷たい強風に身を撓わせながらも咲き競っていた。



ハクサンシャジン



ミヤマイボタ?



ハマエンドウ



ノコギリソウ (キク科)